

「エル・ハチ」など

堀辰雄

青空文庫

「羅馬を後にして、カンパニヤの野邊を横り、アルバノの山の東を走り、險しき山の崖、石多き川の谷を過ぎ、いつしかカツシノに著けば、近くモンテ・カツシノ山の聳ゆるあり、僧院の建物見ゆ。」とは濱田青陵の南歐遊記の一節である。

そのモンテ・カツシノ僧院に、ジイドは或年（戦争の數年前）一週間ばかり滞在してゐた。さうしてその地を立ち去らうとした日、病氣のため謁見できずにゐた僧院長にはじめてその自室に呼ばれて、挨拶をした。僧院長はもう非常な高齢で、衰弱して居り、やつと椅子に靠れるやうにして、ジイドを側に坐らせて、しばらく音楽談をした。

「私はあなたが音楽のお好きなことを聞いてゐる。每晚ピアノをお弾きになつてゐたさうだが、私はそれが聞けなくて、非常に残念だつた。私もピアノをやる。が、もうずっと以前から弾けなくなつて、ただ音譜を読むだけで満足してをる。無言で音譜を讀んで、想像裡に音楽を聞くのも、これでまた樂しみなものだ。かうやつて一人で臥てをるときなど、ときどき私の持つて來さすのは、聖徒傳のやうな本でなく、音譜の類だ……で、私がどういふものを持つて來さすかと思ふね。それはバッハでも、またモーツァルトでさへもない。それはシヨパン——あのもつとも純粹な音樂だ」

その年老いた僧院長の率直な言葉にジイドは甚だ心を動かされた。さうしてジイドは最近「シヨパンに就いてのノオト」を上梓

したをり、その本をその僧院長に獻じてゐるのだ。

私もこのごろその本を友人に送つて貰つて讀んだ。ジイドは一八九二年頃からすでに「シユウマンとシヨパンに就いてのノオト」といふ論文を書かうと企圖してゐたらしい。しかし、シユウマンに對する關心は次第にうすらいで、シヨパンのみが彼の心を占めるやうになる。ジイドがシヨパンにおいて愛したものは、やはり「もつとも純粹な音樂」と一こと言へるだらう。ジイドがシヨパンについて語るとき、いつもボオドレエルの名が引き合ひに出される。シヨパンの音樂を考へるとき、ジイドはボオドレエルの詩を思はずにはゐられないのだ。兩者における完璧たらんとする願ひ、饒舌への嫌惡、さうして同じやうな不意打ち (surprise)

の愛用、そのための極端な省略……

私が昔「エル・ハチ」を譯したとき、或る音楽雑誌に出てゐたこのシヨパン論を、その少し前に讀んで、ジイドの文體の魅力についていろいろと思ひあたる節があつた。そのときにはこの一種云ひ知れぬ不安に充ちた小さな物語が、シヨパンの音楽そのものに似てゐることには、殆ど氣がつかないでゐた。しかしこんどシヨパン論を改めて讀み返したとき、すぐそれを感じた。「エル・ハチ」はまさしく沙漠のなかから聞えて來る [Marche fune`bre] なのだ。さういふ不吉な名で呼ばれてゐるあのシヨパンのソナタ (Op. 35) のフィナーレだの、プレリュウドのなかの凄愴な或るものなどが、この小品とともに蘇つてくるのだ。

青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四卷」筑摩書房

1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行

初出：「アンドレ・ジイド全集月報」新潮社

1951（昭和26）年1月25日刊

入力：tatsuki

校正：染川隆俊

2010年5月29日作成

2011年5月23日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

「エル・ハヂ」など

堀辰雄

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>